



各報道機関文教担当記者 殿

平成22年度 文部科学省

「大学生の就業力育成支援事業」に採択

文部科学省による平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に本学が申請した下記プログラムが採択されましたのでお知らせいたします。

記

- 1 取組名称 社会的・職業的自立力を培う「金沢就業塾」
- 2 取組期間 平成22年度から平成26年度まで（5年間）
- 3 選定日 平成22年9月28日
- 4 取組の概要 別紙のとおり
- 5 その他 文部科学省によるプログラム選定結果 441大学中180件を選定

<本件に関する照会先>

金沢大学学生支援室長 田邊

Tel : 076-264-5163

<担当>

金沢大学広報戦略室 福田

Tel : 076-264-5024

取組の概要

金沢大学は、学生が社会的・職業的に自立する力を培う「金沢就業塾」を新たに構築する。本学は「金沢就業塾」のもと、既存の就業力向上の取組を体系的に取り纏めるとともに、学生が「自ら学び、実践し、気づく」成長サイクルの中で自らの就業力向上を自覚するプログラムを、地域社会との連携のもと、全学的に展開する。

本学では、これまで、「学士力」をもとに学生の就業力について検討を行い、それを「学生が、教育や学生生活を通して得ていく知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた社会的・職業的な課題にそれらを適用し、その課題を自ら解決していく」能力と定義づけ、「就業基礎力」と名づけた。さらに学生の就業力向上を図っていく指標として、就業基礎力の発揮につながる行動特性をコンピテンシー（成果につながる行動特性）理論に基づき解析し、かつ本学の経験を踏まえて、就業基礎力を12の要素（「就業基礎力12の力」）に分類した。この「就業基礎力12の力」は取り組み力、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性力、状況把握力、規律性力、ストレスコントロール力である。本学は、すでに独自に学生の能力及び企業の人材ニーズ双方の「就業基礎力12の力」による解析を行っており、その比較分析が学生の就業活動に有効であることを示してきた。本取組の「金沢就業塾」では、この本学が開発した「就業基礎力12の力」を、「新卒就職率」に加えて「就業力に関する指標」として活用し、「就業基礎力」の向上を図る。

本取組で展開する、社会的・職業的自立を支援する具体的「かたち」を次に示す。

1. 「キャリア自立成長プログラム」（カリキュラムを中心とする自立支援教育プログラム等）を構築する。学生は、入学と同時に本学ポータルサイト上で、自らの意思で「金沢就業塾」に登録し、同時に初學者教育から始まるプログラムの中で就業力向上に必要な知識・スキルを体系的に学んでゆく。さらに地域社会の連携のなかで行われる様々な取組に参加することを通して、実践的な能力を養い就業力の向上を図る。
2. 「キャリア進捗チェックシステム」（「就業基礎力12の力」の獲得状況を「見える化」したWebチェックシステム）により、学生は自らの長・短所を自覚するとともに、「学び、実践」した経験を通して自らの成長を「気づく」ことができる。自己成長を継続的に「見える」形で表示するシステムを学生に提供し、学生の自立的な就業力向上への意欲を促進する。
3. 「コンピテンシー評価」（コンピテンシー理論に基づいた評価）により、学生は社会の求める様々な人材ニーズを自分の特性との比較の中で把握し、希望する進路に進むには「何を学び、何を強化すればよいか」の判断を自ら行う。「金沢就業塾」は、その材料と方法を提供し、学生の進路選択に有効な情報発信等の支援を行う。
4. 「金沢就業塾」は、就業力育成に関する上記の様々なデータを蓄積し、学生の指導にあたる教職員もそれを閲覧することができるシステムをポータルサイト上に構築する。教職員に対してキャリア支援に必要なFD・SDを継続実施しすることで全学的な支援体制を構築し、学生の就業指導にあたる。

「金沢就業塾」は、地域社会や地元企業と連携して就業力教育を実施し、「就業に関することは、金沢就業塾でワン・ストップに解決する」と、学生、地域社会、地元企業に信頼される組織となり、将来のリーダーとなる人材を育成することを目標とする。